

債等の消化に当たっては、引き続き一部に安値既発債との抱き合わせによる消化も行なわれ、それでも地方債などにはかなりの募集残が生じた模様である。一方、金融債については、利付債の売れ行きは不振を続けたが、割引債が7月からの償還差益に対する課税措置実施を控えての応募もあり、好調であったため、前月を大幅に上回る純増を示した。なお、長期国債の証券会社扱い一般募集分(66億円)は引き続き消化の足どりが重く、払込日(20日)にかろうじて全額消化を達成し得た。また政保債の証券会社責任引受分についての個人消化も思わしくないようである。

次に、7月の起債予定額(純増ベース、金融債、国債を除く)は、政保債が抑制ぎみにきまっただうえ、この一両月高水準を続けた電力債、一般事業債の起債希望も一服状態となったため、前月比62億円減となる見込みである。なお、長期国債の市

### 起 債 状 況

(単位・億円、カッコ内は純増ベース)

	42 年			42年	41年
	5 月	6 月	前月比	7 月 (見込み)	7 月
合 計	928 ( 634)	899 ( 622)	△ 29 (△ 12)	836 ( 561)	707 ( 453)
事業債	489 ( 289)	482 ( 284)	△ 7 (△ 5)	428 ( 246)	343 ( 166)
一 般	312 ( 178)	321 ( 176)	9 (△ 2)	266 ( 154)	199 ( 89)
電 力	177 ( 111)	161 ( 108)	△ 16 (△ 3)	162 ( 92)	144 ( 77)
地方債	66 ( 42)	67 ( 39)	1 (△ 3)	68 ( 49)	59 ( 43)
政保債	373 ( 303)	350 ( 299)	△ 23 (△ 4)	340 ( 265)	305 ( 244)
金融債	1,466 ( 428)	1,762 ( 687)	296 ( 259)	1,670 ( 630)	1,347 ( 412)
利 付	583 ( 304)	577 ( 306)	△ 6 ( 2)	690 ( 421)	576 ( 296)
割 引	884 ( 124)	1,186 ( 381)	302 ( 257)	980 ( 209)	771 ( 116)
新規長期 国債	500	300	△ 200	100	200
証券会社 引受分	65	66	1	62	70

中引受予定額は、金融市場ひっ迫が見込まれるところから前年同月の半ば100億円(うち証券会社引受け62億円)にとどめることとされた。

## 実体経済の動向

### ◇経済活動は高いテンポの拡大を持続

最近の経済活動は依然として高いテンポで拡大を続けている。すなわち、鉱工業生産の動向をみると、5月に一時伸び率が鈍化したあと、6月には再びかなり増加するなど多少のアヤはみられるが、ならしてみると相変わらず根強い上昇基調をたどっている。他方、出荷も月により激しいフレを示しているが、これは電力向け大型機械や鋼船などの急激な増減が大きく響いていることによるもので、これらの特殊要因を除いてみると、出荷はこのところ相当高いテンポの増勢を示し、生産の伸びをむしろ上回る勢いすらうかがわれる。このように生産、出荷は相互にからみ合いながら上伸を続けているが、その背後において総需要が根強い拡大歩調をたどっていることはいうまでもない。

最近における総需要の動向を個別要因ごとにみると、輸出は内需が引き続き増大している一方、海外輸出環境は依然として不ざえが続いていることから、年初来の伸び悩み基調にはさしたる変化はうかがわれない。また、民間在庫投資についても、原材料在庫はやや一時的とみられる輸入素原材料の増加などからかなりの増勢を示しており、仕掛品在庫も生産にほぼ見合って増加基調にあるとみられるものの、メーカー製品在庫はこのところ増勢一服ぎみとなっているため、全体としてみると、春先から4、5月ごろにかけてかなり進められてきた在庫投資は、多少とも落ち着いているようである。しかし反面、設備投資や個人消費支出は根強い増勢を続け経済拡大の中核的役割を果たしており、また、これまで暫定予算の関係から出遅れていた官公需も本予算の成立に伴い最近に

なって、やや盛り返す動きをみせている。すなわち、民間設備投資は一般資本財出荷が相変わらず高いテンポで増加を続けている(10~12月前期比+7.9%、1~3月+6.7%、4~6月+7.4%)ことや、機械受注等も基調としてかなりの伸びを持続していることなどから推して、引き続き相当高いテンポで拡大を続けているものとみられる。また個人消費も、今春の高率のベース・アップや夏期ボーナスの大幅な増加による可処分所得の増加に加え、消費態度がやや積極化していることもあって、このところさらに堅調味を加えつつある。最近、全国百貨店の売上高や銀行券の増発基調が増勢を強めていることは、かかる消費堅調の一面を示すものといえよう。なお、官公需は昨年度上期における支払促進や暫定予算の関係などから、本年4、5月ごろには出遅れが目だっていたが、6月に至り幾分回復きみとなっている。以上のように、総需要のうち約7割のウェイトを占める個人消費と財政需要が漸次増勢を強め、また設備投資も、これまでと同じように高いテンポの増勢を持続していることなどからみて、当面、総需要は根強い拡大歩調をたどるものと思われる。

#### (生産——続伸歩調)

5月の鉱工業生産(季節変動調整済み)は、前月比+0.9%と3月(+3.1%)、4月(+1.2%)に比べ増勢が幾分低下したが、これには月により不規則な動きを示す電力向け大型機械の著減、設備の修理による石油の大幅減、連休による電気機械の減産などの一時的要因がかなり響いており、これらの点を考慮すると、生産は依然として根強い増勢を持続しているものとみられる。特殊分類別にみると、生産財は石油製品が大幅に減少したものの、新設高炉稼働による鉄鋼製品の増加、機械部品、無機薬品の大幅増等から+1.7%の増加を示し、建設資材もセメント、板ガラスを中心に+1.9%と相当な増加となった。また、資本財輸送機械は、鋼船、トラック等を中心に+1.4%とかなり増加し、非耐久消費財も医薬品、たばこ等を中心に+2.9%と大幅に増加した。他方、耐久消費財

は連休による家庭用電機の減産から-1.8%とかなり減少し、一般資本財も運搬機械等設備投資関連機械の増加にもかかわらず、電力向け大型機械の著減が大きく響いて-1.2%の減少となった。

### 鉱工業生産の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年		42年		42年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
鉱工業	199.0	210.0	218.7	228.2	225.4	227.5	231.7
指 数							
前期(月)比	4.6	5.6	4.1	4.3	1.2	0.9	1.9
前年同期(月)比	14.0	19.3	19.9	20.0	20.2	19.3	20.4
投資財	4.5	7.1	6.9	4.9	-0.9	0.6	3.8
資本財	4.5	8.7	7.4	5.1	-1.1	0.2	4.8
同(輸送機械を除く)	3.3	9.1	6.7	7.4	0	1.2	4.8
輸送機械	6.7	7.5	8.1	2.8	-2.5	1.4	5.2
建設資材	5.1	2.3	4.9	3.8	0.4	1.9	0.4
消費財	2.0	2.3	0.4	3.1	2.3	0.9	1.2
耐久消費財	7.1	6.4	2.9	4.1	4.7	1.8	2.7
非耐久消費財	-0.3	0	0.1	1.4	-0.2	2.9	-0.4
生産財	5.6	5.4	5.0	3.5	0.6	1.7	1.2

(注) 通産省調べ、42年6月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

6月の鉱工業生産(季節変動調整済み、速報)は、5月+0.9%と増勢がいくぶん鈍化したあと、+1.9%と再びかなりの増加を示した。これには、電力向け大型機械が前月著減の反動から、また、石油が設備の定期修理の終了から、それぞれ大幅に増加したことが少なからず響いているが、これらの点を考慮しても生産が根強い上伸基調にあることには変わりはない。この結果、4~6月の生産の対前期比伸び率は+4.3%となり、1~3月の伸び(+4.1%)をやや上回った。

6月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は、前月に著減した電力向け大型機械の反動増を中心に+4.8%と大幅増加し、資本財輸送機械も鋼船、トラック、バス等を中心に+5.2%と著増した。また、耐久消費財は小型四輪自動車や自動二輪車の大幅増に加え、前月連休の影響から減少した家庭用電気機器の増加もあって+2.7%と相

当の増産となり、生産財も、鉄鋼の増産や設備修理の関係で前月大幅減産となった石油の反動増などから、+1.2%とかなりの伸びを示した。この間、建設資材は亜鉛鉄板の増加にもかかわらず、鉄骨、橋りょうの減少から+0.4%と小幅の増加にとどまり、非耐久消費財はたばこの減産などが響いて-0.4%と微減した。

(出荷—根強い増勢基調を持續)

5月の鉱工業出荷(季節変動調整済み)は、前月比+3.6%と著増した。これには、電力向け大型機械が著減したものの、鋼船、動植物油脂が前月の大幅な落ち込みを上回る急増を示したという一時的要因がからんでいるが、これらの要因を除いてみてもここ2、3ヵ月みられた伸び悩み傾向は回復しつつあるよううかがわれる。特殊分類別にみると、資本財輸送機械は鋼船の著増をはじめ、トラック、自動二輪車の増加などから+13.3%と著増し、生産財も鉄鋼、機械部品、化学製品(動植物油脂等)等を中心に+4.2%と大幅に増加した。このほか、建設資材も亜鉛鉄板、鉄骨、セメント等を中心に+2.7%と相当な増加を示した。他方、一般資本財は電動機器、変圧器、運搬機械等の増加にもかかわらず、電力向け大型機械の著

減から-1.6%とかなり減少し、耐久消費財も前月に著増した家庭用電機の反動減などから-0.5%の小幅減少となった。

6月の鉱工業出荷(季節変動調整済み、速報)は、前月著増のあと、+0.7%と小幅の増加にとどまった。しかし、これには前月急増した鋼船が大幅減少(-37.2%)を示した反面、前月に急減した電力向け大型機械が著増(+88.3%)するといった一時的な諸要因がからんでおり、月によりフレの大きい鋼船、電力向け大型機械、動植物油脂を除いてみると、5月+2.0%のあと6月も+2.2%と引き続き高い伸びを示している。なお、四半期別にみると、4~6月の前期比伸び率は、+2.9%と、1~3月の伸び(+4.4%)をかなり下回った。ただ、これには昨年10~12月における毎月の伸びが大幅であったことの影響から、1~3月の期中平均の前期比増加率がかなり高めに出ている面があることを見のがせず、別に期中における月平均の伸び率で比較してみると、4~6月中は+1.3%と1~3月中の+0.8%をかなり上回り、増勢はむしろ強まった形となっている。6月の動きを特殊分類別にみると、一般資本財は上記電力向け大型機械や普通鋼鋼管の増加などから+6.3%と著増し、耐久消費財も小型四輪自動車、自動二輪車、家庭用電気機器等を中心に+8.9%と顕著な増加を示した。また、生産財は鉄鋼製品(粗鋼、鋳鋼、特殊鋼熱間圧延鋼材等)、非鉄金属(鉛地金、伸銅製品等)、石油製品(重油、灯油等)が増加したものの、機械(はん用内燃機関、ドリル、蓄電池等)、綿織物等の減少から+0.6%の増加となり、また建設資材も、窯業製品(耐火れんが、陶磁器)が増加したものの、塩化ビニール硬質製品やコンクリート管などが減少したため、+0.4%と小幅ながら増勢を持續した。このほか、非耐久消費財も繊維、紙・パルプがかなりの増加を示したにもかかわらず、大宗を占める食料品の微増から+0.5%と若干増加した。この間、資本財輸送機械は、前月著増した鋼船の反動減を中心に-7.6%と大幅減少を示した。

鉱工業出荷の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)比増減率・%)

	41年		42年		42年		
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
鉱工業	194.0	204.0	212.9	219.0	213.3	221.1	222.6
前期(月)比	3.7	5.1	4.4	2.9	-0.4	3	0.7
前年同期(月)比	13.2	18.0	18.5	17.0	15.7	18.5	16.8
投資財	7.0	5.7	6.9	4.7	-1.7	4.8	-0.5
資本財	4.7	6.7	7.6	5.2	-1.8	5.6	-0.9
同(輸送機械を除く)	2.4	7.9	6.7	7.4	1.0	-1.6	6.3
輸送機械	7.1	4.8	9.6	3.1	-4.3	13.3	-7.6
建設資材	3.3	3.9	2.5	3.2	-0.5	2.7	0.4
消費財	1.2	4.1	-0.1	1.9	2.3	1.0	2.4
耐久消費財	5.4	5.2	-3.9	10.3	13.1	-0.5	8.9
非耐久消費財	0	3.9	1.2	-0.8	-1.0	1.8	0.5
生産財	5.1	5.0	4.5	3.1	-0.5	4.2	0.6

(注) 運産省調べ、42年6月は速報。  
前年同期(月)比は原指数による。

(在庫——製品在庫は5ヵ月ぶりに減少)

5月の鉱工業製品在庫(季節変動調整済み)は、+0.5%と小幅ながら引き続き増加した。特殊分類別にみると、耐久消費財はカメラ、軽四輪車が減少したものの、家庭用電機の増加を中心に+1.2%と増加し、非耐久消費財もたばこ、繊維製品を中心に+1.5%とかなりの増加を示した。また、生産財は石油製品の減少にもかかわらず、動植物油脂、非鉄の著増から+0.5%と、若干増加し、建設資材も亜鉛鉄板が著減したもののセメント、板ガラスがかなり増加したため+0.1%と微増した。この間、資本財輸送機械は乗用車、トラック等を中心に-5.9%と著減し、一般資本財も電線ケーブル、農業機械等を中心に-1.1%の減少となった。

上記のような出荷、在庫の動きを映じて、5月の製品在庫率は-3.1%(在庫率指数106.7)と4ヵ月ぶりに低下した。財別にみると、耐久消費財が+1.7%とかなり上昇したほかは各財とも低下し、とくに資本財輸送機械の大幅な低下(-16.9%)が目だった。

メーカー原材料在庫(季節変動調整済み)は、4

鉱工業製品在庫の動向

(季節変動調整済み、特殊分類別は前期(月)末比増減率・%)

		41年		42年		42年		
		9月	12月	3月	6月	4月	5月	6月
工業	指数	225.2	221.4	230.7	233.5	234.8	236.0	233.5
	前期(月)末比	0.4	-1.7	4.2	1.2	1.8	0.5	-1.1
	前年同期比	-1.6	-2.1	0.5	3.3	3.8	4.2	3.3
業	製品在庫率指数	115.1	106.0	107.8	104.9	110.1	106.7	104.9
	投資財	4.3	-1.5	1.8	-3.6	0	-1.5	-2.2
	資本財	6.2	-1.0	0.1	-7.1	-1.5	-2.0	-3.8
	同(輸送機械を除く)	0.9	3.9	-5.1	-9.3	-2.4	-1.1	-6.0
	輸送機械	18.2	-8.2	18.6	-7.1	2.6	-5.9	-3.8
	建設資材	1.1	-3.1	5.7	3.2	2.9	0.1	0.2
	消費財	-2.2	-1.6	9.7	1.7	1.5	1.4	-1.2
	耐久消費財	-0.4	0.6	16.5	-1.6	2.7	1.2	-5.4
	非耐久消費財	-1.4	-0.3	4.0	3.0	1.5	1.5	0.1
	生産財	-1.3	-2.2	1.2	-3.2	3.0	0.5	-0.3

(注) 通産省調べ、42年6月は速報。  
前年同期(月)末比は原指数による。

月に前月比+1.8%とかなりの増勢を示したあと、5月(速報)も+4.2%と大幅に増加し、原材料在庫投資のテンポはこのところかなりの高まりを示している。5月の動きを財別にみると、素原材料では輸入分がコークス用原料炭、鉄くず、鉄鉱石、銅鉱石、原油、麻類等を中心に+6.8%、国産分は鉄くず、銅鉱石、パルプ用材等を中心に+7.4%といずれも著増した。また、国産製品原材料も染色整理、織物および繊維二次製品メーカーの糸・織物ならびに化合織メーカーのパルプ・チップ等を中心に+1.8%とかなりの増加を示した。一方原材料消費(季節変動調整済み)は、4月に+0.8%のあと5月(速報)も+0.2%の微増にとどまった。5月の増加が小幅にとどまったのは、石油が設備の定期修理の関係で著減したことが大きく響いており(ちなみに石油を除いてみると+0.9%)、鉄鋼、非鉄、機械、ゴム、繊維等はそろって増加している。以上のような在庫、消費の動きを映じて、5月の原材料在庫率は前月比+4.0%(在庫率指数70.4)とかなり上昇した。特殊分類別にみると、輸入素原材料が+10.1%と目だった上昇を示している。

次に、販売業者在庫(季節変動調整済み)は、2月+3.1%、3月+2.1%と高い伸びを示したあ

製造工業原材料在庫および在庫率の推移

(季節変動調整済み、前期(月)末比増減率・%)

		41年		42年		42年		
		9月	12月	3月	3月	4月	5月	6月
製造工業	在庫指数	130.8	135.2	141.8	141.8	144.4	150.4	
	前期(月)末比	0.8	3.4	4.9	1.2	1.8	4.2	
	素原材料	-2.6	2.6	7.5	4.2	1.5	7.7	
	うち輸入分	-0.9	6.5	7.7	3.4	0.7	6.8	
	製品原材料	4.0	4.1	2.3	-1.0	2.7	1.6	
	うち国産分	3.8	4.5	2.3	-1.0	2.7	1.8	
在庫率	在庫率指数	68.6	66.6	67.0	67.0	67.7	70.4	
	素原材料	67.4	64.7	67.9	67.9	67.7	73.8	
	うち輸入分	66.5	65.8	68.0	68.0	67.4	74.2	
	製品原材料	73.0	71.2	69.9	69.9	71.7	72.2	
	うち国産分	72.5	71.0	69.7	69.7	71.5	72.1	

(注) 通産省調べ、42年5月は暫定。

## 販売業者在庫の推移

(季節変動調整済み、前期(月)末比増減率・%)

	41年			42年		
	9月	12月	3月	2月	3月	4月
総合指数	200.4	196.7	213.5	209.2	213.5	224.9
前期(月)末比	1.4	-1.8	8.5	3.1	2.1	5.3
素原材料	6.1	33.1	-7.4	2.7	-6.3	2.4
製品	0.7	-5.5	10.5	3.5	2.3	5.6

(注) 通産省調べ、42年4月は暫定。

と、4月(速報)も+5.3%とさらに増勢を強めた。4月の動きを財別にみると、素原材料では月によるフレが大きく、前月急減した国産分は石炭の減少から-9.3%と著減したが、逆に前月大幅減少を示した輸入分は生ゴム、綿花、羊毛の入着増から+6.3%と著増した。一方、製品は鋼材が引き続き大幅に増加したうえ、織物の著増や石油製品の増加もあって+5.6%と大幅に増加し、年初来一貫して根強い増勢を継続している。

6月の鉱工業製品在庫(季節変動調整済み、速報)は前月比-1.1%と5ヵ月ぶりにかなり減少した。ここ数ヵ月の動きを3ヵ月移動平均によってならしてみても、3月+2.0%、4月+2.1%のあと、5月は+0.4%と最近では増勢が鈍化している。以上の結果、6月末在庫は前四半期末比+1.2%の増加にとどまり、1~3月間の増加幅(+4.2%)に比べ伸びはかなり鈍化した。6月の動きを特殊分類別にみると、建設資材が板ガラスの増加から+0.2%、また、非耐久消費財が食料品の増加から+0.1%とそれぞれ微増したほかは各財とも軒並み減少した。すなわち、一般資本財は動力耕運機が増加したものの、エアコンディショナー、はん用内燃機関、金属工作機械、変圧器の減少を中心に-6.0%と著減し、資本財輸送機械も自動二輪車、三輪トラックの減少を中心に-3.8%とかなりの減少を示した。また、耐久消費財は時計、カメラ用交換レンズが増加した反面、自動二輪車、家庭用電気機器(扇風機、冷蔵庫、電気井戸ポンプ等)の減少から-5.4%と大幅な減少を示した。この間、生産財も石油製品(揮発油、灯油、

軽油等)、非鉄金属(電気銅、アルミニウム等)が増加したものの、化学(硫酸、尿素、ベンゾール等)の著減が響いて-0.3%とわずかに減少した。

上記のような出荷、在庫の動きを映じて6月の製品在庫率は-1.7%(在庫率指数104.9)と前月に続いてかなり低下した。特殊分類別にみると、資本財輸送機械が若干上昇した反面、一般資本財、耐久消費財は大幅に低下した。

(設備投資—依然高いテンポの増勢を継続)

設備投資関連指標の動きをみると、まず一般資本財出荷(季節変動調整済み)は、6月に前月比+6.3%と大幅増加を示し、この結果、4~6月では前期比+7.4%と1~3月(+6.7%)に引き続き依然高いテンポで増勢を継続した。

一方、設備投資の先行指標である機械受注(海運を除く民需、季節変動調整済み)をみると、5月に前月著増の反動から-12.6%と減少のあと、6月は非製造業を中心に+21.8%と再び著増した。この結果、4~6月では前期比+22.6%と引き続き高い伸びを示した(10~12月+22.3%、1~3月+19.1%)。6月の動きを業種別にみると、製造業は窯業、繊維等が増加したものの、化学、石油・石炭、自動車、鉄鋼等が減少したため-10.8%と前月に引き続き減少した。もっとも、4~6月を通じてみると、前期比+24.8%と1~3月

## 需要先別機械受注の推移

(季節変動調整済み、月平均、単位・億円)

	41年	42年		42年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
民需	990 (17.5)	1,179 (19.1)	1,340 (13.6)	1,350 (19.8)	1,247 (-7.6)	1,422 (14.0)
同(除海運)	890 (22.3)	1,060 (19.1)	1,300 (22.6)	1,327 (43.7)	1,160 (-12.6)	1,413 (21.8)
製造業	527 (47.6)	631 (19.7)	787 (24.8)	860 (65.4)	794 (-7.7)	708 (-10.8)
非製造業	459 (-5.4)	536 (16.7)	566 (5.7)	543 (-8.5)	458 (-15.7)	697 (52.3)
同(除海運)	362 (-2.6)	421 (16.4)	520 (23.5)	483 (19.9)	387 (-19.8)	690 (78.2)

(注) 経済企画庁調べ、カッコ内は前期(月)比増減率(%)。

(+19.7%)を上回る相当の増加となっている。他方、非製造業(海運を除く)は、電力の激増や建設の増加から+78.2%と顕著な増加を示した。

また、同じく先行指標である建設工事受注(民間産業、季節変動調整済み)は、5月に前月著増の反動から繊維、化学、鉄鋼等を中心に-15.7%と減少したあと、6月(速報)は+15.1%と再び増加した。最近の動きを3ヵ月移動平均によってならしてみても、3月+9.7%、4月+2.0%、5月+4.3%と引き続き増加を示している。なお官公庁向けは、4、5月に比べ持ち直しきみとなっている。

#### ◇商品市況は鉄鋼が続伸のあと小幅軟化、一方綿糸は続落のあと小戻すなど区々な動き

6月から7月前半にかけての商品市況をみると、6月初来大勢として上伸歩調をたどってきた鉄鋼は、7月にはいり条鋼類を中心に頭打ち商状を呈し、月央近くには小幅軟化を示すに至った。反面、繊維では、5月央以降降勢が目だっていた綿糸が7月中旬には小戻しきみとなったほか、生糸、スフ糸がひところの弱気配から一転して急伸し、また非鉄でも銅、鉛が上伸ないし強含み商状を示すなど、主力商品は強弱区々な動きを示した。その他の商品でも、石油がスエズ運河閉鎖に伴うフレート高の影響から強含みを示し、セメント、砂糖等も強含みないし若干上伸したが、反面、洋紙、木材等は総じて弱保合いに推移するなど足どりを異にしている。

このように最近の商品市況では商品により多少の差がみられるが、これらはたとえば鉄鋼の場合における官公需の出遅れや天候不順、綿糸の場合における仕手筋の介入など、いずれも一時的とみられる要因も少なからずからんでいることによるもので、総じてみれば、ここ数ヵ月来の商品市況の基調にはとくに変化はないように思われる。ただ、この間現実の需要が予想以上に根強い増勢を示している点はいなめないところであり、現に一部の商品ではこれがある程度市況を下ささないし押し上げている面がある点は見のがせない。

たとえば銅の上昇は、需要の著しい伸びに供給が追いつかず、市中の需給がひっ迫化したことによる面が大きく、また綿糸における仕手筋の介入も、夏物繊維製品の売行き好調から秋冬物に対する強気感が広まりつつあることが、その一つの背景となっているとみられる。

次に商品別の動きをやや詳しくみると、まず鉄鋼では、6月初来好天による民間建設工事に需要の好伸や、出遅れている官公需に対する期待などにささえられて条鋼類が上伸を続け、鋼板類も厚中板を中心に強含みを示した。しかし更月後は、官公需が期待されたほどの盛り上がりを示さず、また、6月下旬から7月初めにかけての天候不順が災いして出荷の足どりが多少鈍化し、一部の品種(ホット・コイル関連の鋼板類)では、供給圧力の根強さがあらためて見直されるようになったことなどもあって、月央には条鋼類、鋼板類とも小幅の軟化を示した。一方繊維では生糸、スフ糸が需給のひっ迫から急伸(生糸は史上最高値を示現)したのが目だったほか、5月後半来高値訂正を続けてきた綿糸も、7月央には秋需期の需要増を見越した仕手筋の介入もあって、小戻し商状を呈するに至った。その他の品目では、そ毛糸は高水準のまま保合ったが人絹糸は需給地合いがさえず小幅軟化を続けた。非鉄では、銅は中東戦争停戦後の海外相場続落を映じて軟化を続けたが、7月には下げ渋りから、小反発商状を呈するに至った。これは、電線、伸銅向け需要の堅調から需給が引き締まり状態を続けているうえ、海外相場も米国の産銅スト懸念から下げ止まったことなどによるものである。このほか、鉛もバッテリー、無機薬品向け需要の堅調から強含みを続けたが、亜鉛は需要の持ち直し傾向にもかかわらず、メーカーの積極的な販売態度から弱含みに推移した。

次に石油では、中東戦争に伴うスエズ運河の閉鎖や中東地域における原油積出しの一部停止などにより、重油、灯油を中心に従来の軟調傾向を改める動きが目だった。セメントは、から梅雨による民間建設工事の進捗もあって、6月中はかなり

の出荷増をみたが、7月にはいつてからは天候不順の影響から出荷はやや伸び悩みきみとなった。しかし、市況は終始強含みで推移した。他方木材は、期待された官公需がさして盛り上がりを示さず、依然荷もたれ感が解消されていないため、問屋筋の売り腰が弱く、総じて弱保合いで推移した。また化学では、基礎薬品類は、需給ひっ迫の目だつカーバイド、かせいソーダが強含みないし若干の上昇を示したのを除き、塩素、塩酸等が弱保合いとなるなどひとりの堅調きは薄れつつあり、合成樹脂も、塩化ビニールが保合いを続けているほかは軟化基調を改めていない。紙では、洋紙が需要期明けから荷動きがやや鈍化したものの、総じて保合いで推移し、板紙は新設設備の稼働などによる供給圧力の増大から軟弱の度合いを強めた。この間砂糖は、需要不伸の反面、供給面では買手決済資金調達のための、メーカーの換金売りが続いたことから6月中を通じて軟化を続けたが、7月にはいり業者間の生産自主調整の動きが好感されてやや小戻した。

(卸売物価——引き続き小幅上昇)

6月の卸売物価は、前月比+0.2%と、5月(+0.1%)に引き続き上昇した。これは食料品、石油・石炭が統落したにもかかわらず、繊維品(綿糸、スフ糸)および木材・同製品が統騰したほか、鉄鋼が5ヵ月ぶりにわずかながら反騰し、また非鉄金属(銅鉱、銅地金、伸銅品等)も中東戦争に伴う海外相場高騰の影響もあって上昇したことなどによるものである。ちなみに、食料品、非鉄を除く総平均でみると、5月(+0.2%)、6月(+0.3%)とこのところやや強含みとなっている。なお、7月にはいつてからの動きをみると、上旬は木材・同製品が低下したものの、鉄鋼の統伸や食料品、繊維品(生糸、スフ糸)の反騰などを主因に+0.1%と、引き続き上昇傾向を示し、中旬も鉄鋼の反落にもかかわらず、繊維(生糸、スフ糸、綿糸)や非鉄(銅)の上昇からその水準で保合った。

(消費者物価——統落)

6月の消費者物価(東京)は、前月比-0.5%と5月(-1.2%)に引き続きかなりの低下を示した。

### 卸売物価指数の推移

(単位・%)

	ウ エ イト	下 降 期 (ピーク 38/11) 38/11 →40/7	上 昇 期 (ボトム 40/7) 40/7 →42/6	最 近 の 推 移							
				42 年			42 年 6 月			42年7月	
				4 月	5 月	6 月	上 旬	中 旬	下 旬	上 旬	
総 平 均	100.0	- 0.7	+ 6.5	- 0.5	+ 0.1	+ 0.2	保 合	+ 0.1	保 合	+ 0.1	
食 料 品	16.4	- 0.4	+ 5.1	- 0.4	- 0.1	- 0.2	- 0.1	- 0.1	保 合	+ 0.3	
織 維 品	12.9	- 8.0	+ 13.9	保 合	+ 1.7	+ 0.9	+ 0.5	- 0.3	- 0.3	+ 0.1	
鉄 鋼	10.2	- 3.4	+ 5.7	- 1.4	- 1.1	+ 0.1	保 合	+ 0.5	+ 0.2	+ 0.2	
非 鉄 金 属	4.5	+ 18.4	+ 9.7	- 4.8	- 2.2	+ 1.1	+ 0.9	- 0.8	- 0.5	- 0.4	
金 属 製 品	3.5	+ 4.1	+ 6.1	- 0.2	+ 0.2	+ 0.1	保 合	保 合	保 合	+ 0.5	
機 械 器 具	20.2	- 0.6	+ 1.1	+ 0.2	+ 0.1	- 0.1	- 0.2	保 合	+ 0.2	保 合	
石 油 ・ 石 炭	5.2	+ 1.0	- 3.3	- 0.2	- 0.3	- 0.6	- 0.4	- 0.1	+ 0.3	+ 0.3	
木 材 ・ 同 製 品	6.1	- 2.7	+ 26.7	+ 0.1	+ 0.1	+ 0.3	- 0.4	+ 1.0	+ 0.1	- 0.3	
窯 業 製 品	3.0	- 0.8	+ 6.3	+ 0.4	+ 0.3	保 合	保 合	保 合	保 合	保 合	
化 学 品	7.4	+ 1.9	- 2.9	+ 0.1	保 合	保 合	+ 0.1	保 合	保 合	- 0.5	
紙 ・ パ ル プ	3.3	- 0.3	+ 4.6	+ 0.2	+ 0.6	+ 0.1	- 0.1	保 合	+ 0.1	保 合	
雑 品 目	7.5	+ 1.1	+ 6.2	+ 0.2	+ 0.2	+ 0.4	+ 0.4	- 0.2	+ 0.2	保 合	
工 業 製 品	79.5	- 1.4	+ 5.1	- 0.2	保 合	+ 0.2	+ 0.2	- 0.1	保 合	保 合	
非 工 業 製 品	20.5	+ 1.5	+ 11.6	- 0.9	+ 0.2	+ 0.2	- 0.2	+ 0.3	+ 0.2	+ 0.2	
非鉄・食料を除く 総 平 均	79.1	- 1.8	+ 6.7	- 0.1	+ 0.2	+ 0.3	保 合	+ 0.1	+ 0.1	保 合	

(注) 本行調べ、35年基準指数による。

これは野菜(きゅうり、トマト、なす)の大幅統落に加え、鶏卵、豚肉等の値下がりから食料品が大幅に下落したのが大きく響いたほか、光熱費もわずかながら下落したことによるものである。ちなみに、前年同月比の上昇率は+1.9%の微騰にとどまっている。他方、本行小売物価指数も夏野菜の統落を映じた食料品の下落を主因に、6月は前月比-0.6%の低下を示した。なお、全国消費者物価の動きをみると、5月は前月比-0.6%とかなりの低下を示した。これは、住居費、被服費、雑費等が引き続き上昇したものの、食料品が野菜、くだもの、鮮魚の値下がりを中心として大幅に下落したことによるものである。

(輸出入物価—輸出物価、輸入物価とも統騰)

6月の本行輸出物価は前月比+0.4%と統騰した。これは鉄鋼が米国からの引合いの低調により小幅下落を続けたものの、繊維品(綿・スフ関係)

や食料品(冷凍まぐろ)が上昇したためである。他方、輸入物価も、スエズ運河閉鎖に伴うフレート高の影響から食料品(とうもろこし、大豆、小麦)、原材料(くず鉄、原料炭)等が上昇したため、前月比+0.2%と統騰した。以上の結果、交易条件指数は+0.2%と引き続き好転した。

◆国際収支は引き続き大幅の赤字

6月の国際収支は、貿易収支が季節的事情から若干好転し、77百万ドルの黒字(前月は17百万ドルの赤字)となったものの、貿易外収支、長期資本収支がこれを上回る額の逆調(赤字額はそれぞれ97百万ドル、72百万ドル)を示じたため、総合では51百万ドルの赤字となり、すでに4か月にわたってかなりの逆調傾向が続いている。貿易収支は、輸出の停滞と輸入の増勢持続から、このところ悪化傾向を強め、6月には季節調整後の黒字額はわずかに69百万ドルと1~3月平均水準(140百万ドル強)の半ば以下に落ち込んだ。

貿易外収支は、ここ兩三月、輸入の増大に伴い運賃支払がかなり増加しているため、軍関係受取りが依然漸増基調にあるにもかかわらず、実勢赤

消費者・小売・輸出入物価の推移

(単位・%)

	ウエイト	前年度比 上昇率		最近の推移			最 近 年 同 月 比	
		40年度 平均	41年度 平均	42年				
				4月	5月	6月		
消 費 者 物 価 (東 京 全 国 5 万 以 上)	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+6.8	+4.7	保合	-1.2	-0.5	+1.9
	食料	91.4	+6.2	+4.9	+0.4	+0.1	+0.1	+2.3
	住居	40.9	+8.1	+3.0	-1.0	-3.2	-1.5	+0.3
	光熱	10.7	+4.4	+5.7	+0.5	+0.3	+0.2	+4.8
	被服	4.5	+0.4	0.0	-0.2	保合	-0.1	-0.5
	雑費	13.0	+3.8	+3.6	-0.2	保合	保合	+3.1
	総合	31.0	+7.5	+7.9	+1.3	+0.3	+0.3	+2.7
	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+6.4	+4.7	+0.3	-0.6	-0.6	+3.1
	総合 (季節商品 を除く)	91.4	+6.1	+4.7	+0.5	+0.4	+0.1	+2.8
	総合 (季節商品 を除く)	100.0	+7.4	+4.6	+0.3	-0.8	-0.5	+3.1
総合 (季節商品 を除く)	91.3	+7.0	+4.6	+0.2	+0.2	+0.3	+2.6	
小売物価 (東京)	総合平均 (生鮮食品 を除く)	100.0	+4.2	+2.5	+0.2	-0.6	-0.6	+2.3
		94.3	+3.7	+2.0	+0.1	保合	+0.3	+2.3
輸出入物価 (契約ベース)	輸出		-0.7	+1.4	-0.2	+0.3	+0.4	+1.8
	輸入		-1.0	+0.7	-0.4	+0.2	+0.2	-2.4
	交易条件		+0.3	+0.6	+0.2	+0.1	+0.2	+4.3

(注) 消費者物価(40年基準)は総理府調べ、小売物価(40年基準)、輸出入物価(35~37年基準)は本行調べ。

国際収支

(単位・百万ドル)

	41年		42年			前 年 同 月	
	10~ 12月	1~ 3月	4~ 6月	4月	5月		6月
経常収支	166 <sup>△</sup>	58 <sup>△</sup>	55	5 <sup>△</sup>	128 <sup>△</sup>	43	115
貿易収支	255	51	59	116 <sup>△</sup>	17	77	194
輸出	921	742	832	842	808	845	786
輸入	666	691	773	726	825	768	592
貿易外収支	<sup>△</sup> 73	<sup>△</sup> 88	<sup>△</sup> 98	<sup>△</sup> 96	<sup>△</sup> 100	<sup>△</sup> 97	<sup>△</sup> 73
移転収支	<sup>△</sup> 15	<sup>△</sup> 21	<sup>△</sup> 16	<sup>△</sup> 15	<sup>△</sup> 11	<sup>△</sup> 23	<sup>△</sup> 6
長期資本収支	<sup>△</sup> 102	<sup>△</sup> 61	<sup>△</sup> 64	<sup>△</sup> 72	<sup>△</sup> 47	<sup>△</sup> 72	<sup>△</sup> 68
短期資本収支(注1)	<sup>△</sup> 17	44	63	48	60	81	<sup>△</sup> 24
誤差脱漏	<sup>△</sup> 30	<sup>△</sup> 20	<sup>△</sup> 13	<sup>△</sup> 63	<sup>△</sup> 42	<sup>△</sup> 17	7
総合収支	17 <sup>△</sup>	95 <sup>△</sup>	69	82 <sup>△</sup>	73 <sup>△</sup>	51	30
金融勘定(注2)	17 <sup>△</sup>	95 <sup>△</sup>	69	82 <sup>△</sup>	73 <sup>△</sup>	51	30
外貨準備増減	10	1 <sup>△</sup>	1	15	18 <sup>△</sup>	36	8
その他	7 <sup>△</sup>	96 <sup>△</sup>	68	97 <sup>△</sup>	91 <sup>△</sup>	15	22

(注1) 金融勘定に属するものを除く。

(注2) 金融勘定の△印は純資産の減少、各期月平均。



字幅は増加する傾向を示している(6月は97百万ドルの逆調と前年同月比24百万ドルの悪化)。資本収支では、短期資本はBCユーザンスの増加を主因に引き続き大幅の流入超(81百万ドル)となったが、長期資本は輸出延払債権の増加を中心にほぼ例月並みの赤字(72百万ドル)を示した。

この間、金融勘定では、輸入ユーザンスなど借入債務が増加したことを主因に為替銀行の対外ポジションが悪化を続けたうえ、外貨準備も4か月ぶりにかなり減少した。

### 輸出入指標の推移

(季節調整済み、単位・百万ドル)

	国際収支			通関		信用状			輸出 承認	輸入 承認
	輸出	輸入	貿易	輸出	輸入	輸出	輸入	差		
41年										
7~9月	808	632	176	817	810	669	355	314	841	776
10~12月	851	673	178	868	864	679	381	298	885	817
42年										
1~3月	829	685	144	848	908	675	394	281	905	866
4~6月	840	740	100	856	944	675	377	298	874	952
42年										
2月	827	669	158	851	893	656	398	258	915	885
3月	814	609	115	828	919	683	404	279	896	896
4月	854	705	149	865	908	665	372	293	867	821
5月	822	742	80	842	955	655	387	268	879	905
6月	843	774	69	861	969	703	373	330	877	1,130

(注) 季節調整はセンサス局法による。各期月平均。

6月の輸出は、前年同月比+8%と前2か月とほぼ同程度の伸びにとどまった。季節調整後では前月比+3%とかなりの増加を示したが、これは前月とくに少なかった船舶の引渡しが当月は例月に近い水準に戻ったことによる面が大きく、ここへきて輸出の伸び悩み基調がとくに変わったとはみられない。商品別の動きをみても、自動車、ラジオ、テープ・レコーダー、合繊織物等は好伸しているが、鉄鋼、綿織物、合板、魚介等では引き続き前年水準を下回ったままの状態が続いており、また、従来好調であったテレビの増勢もここ2~3か月目だって鈍化しているなど、概して低調に推移している品目が多い。仕向先別には、東南アジア向け、豪州向けなどは順調であるが、米国向け、共産圏向けなどは相変わらず不振を続け

ている。

先行指標の輸出信用状は、前年同月比+5%(5月同+4%、4月同+0%)となったが、季節調整後3か月移動平均値の動きをみても、次のとおり、5月には若干増加している。もっとも、その水準は昨年12月の水準(過去のピーク)に比べなお低く、しかもこれが持続的な動きとなるかどうかも見きわめがたい。現に7月にはいってからは再び伸び悩んでいる。

### 輸出信用状の内訳

(単位・百万ドル)

	41年			42年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
合計	664 (+10)	664 (+5)	689 (+3)	645 (+0)	716 (+4)	706 (+5)
食料品	30 (+18)	26 (-10)	25 (-1)	24 (+5)	24 (-4)	26 (-4)
水産品	21 (+19)	18 (-12)	16 (-1)	15 (-5)	15 (-12)	18 (+18)
繊維製品	128 (+6)	117 (+4)	112 (-4)	102 (-7)	122 (+2)	113 (-6)
綿製品	25 (-4)	21 (-20)	19 (-24)	16 (-30)	22 (-11)	18 (-30)
化学製品	48 (+15)	50 (+1)	58 (+14)	55 (+7)	62 (+21)	57 (+15)
肥料	9 (-13)	12 (-26)	17 (+5)	13 (-27)	19 (+8)	19 (+40)
金属製品	134 (+2)	141 (-2)	143 (-1)	134 (-0)	142 (-8)	152 (+7)
鉄鋼	125 (+8)	129 (-2)	132 (-1)	126 (+0)	129 (-10)	141 (+7)
機械	188 (+16)	195 (+15)	203 (+9)	191 (+3)	214 (+14)	204 (+10)
船舶	6 (-16)	9 (-6)	6 (-31)	3 (-61)	8 (+67)	7 (-51)
自動車	43 (+4)	51 (+17)	51 (+12)	54 (+2)	53 (+5)	47 (+38)
その他	137 (+9)	135 (+3)	148 (+2)	140 (-1)	153 (+1)	152 (+6)
米 国	262 (+12)	263 (+1)	282 (+2)	265 (-4)	288 (-0)	293 (+10)
ア ジ ア	196 (+10)	196 (+15)	196 (+8)	192 (+9)	197 (+1)	200 (+14)
欧 州	67 (-3)	75 (-8)	72 (-2)	68 (-4)	73 (+3)	74 (-3)
その他	139 (+10)	130 (+6)	139 (+2)	120 (-1)	158 (+16)	139 (-9)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。各期月平均。

	百万ドル		百万ドル
41年12月	686(ピーク)	42年3月	668
42年1月	679	4月	668
2月	675	5月	675

一方、6月の輸入は、前年同月比+30%、季節調整後の前月比でも+4%と引き続き根強い増勢を示した。これは、金属原料、石炭、木材等を中心とする原燃料、機械類、化学品、雑製品等が高い伸びを続けているうえ、前2か月低水準で推移した食料の反動増、年初に国内鉄鋼相場が急騰した際買付けられた鋼材の入着集中などがあったためである。

6月の輸入承認は、前年同月比+53%と急増を示した。これには、明年から4年間にわたり逐次輸入される予定の航空機16機分2億ドル余が含まれているが、こうした特殊要因を除いてみても前年同月を26%程度上回る高水準となっている。

この間、メーカーの輸入素原材料在庫状況についてみると、輸入の増大に伴って在庫も漸増傾向をたどってきたが、増加のテンポは原材料消費の増加に見合った程度にとどまり、在庫率は4月まで大勢横ばい状態を続けてきた。5月には、この在庫率が約7ポイントの急上昇を示したが、これには、石油精製設備の修理により原油処理量が大幅に減少したことや、新規設備の稼働に備え鉄鋼原料在庫の若干の積み増しが行なわれたことなどが大きく響いている模様であり、先行き輸入の

反動減を招くほどの規模のものとはみられない。

### 輸入承認品目別内訳

(単位・百万ドル)

	41年	42年		42年		
	10~12月	1~3月	4~6月	4月	5月	6月
食料品	147 (+10)	148 (+15)	154 (+7)	153 (+3)	165 (+13)	144 (+6)
原燃料	476 (+25)	473 (+18)	481 (+20)	449 (+15)	500 (+23)	494 (+23)
羊毛	34 (-8)	32 (-7)	30 (-15)	29 (-10)	33 (-18)	29 (-17)
綿花	30 (+1)	44 (+14)	31 (+18)	29 (-12)	35 (+31)	30 (+49)
鉄鉱石	43 (+48)	45 (+25)	47 (+29)	47 (+42)	51 (+41)	44 (+8)
鉄鋼くず	23 (+212)	26 (+236)	33 (+220)	29 (+280)	26 (+100)	46 (+318)
非鉄金属	24 (+53)	22 (+38)	21 (+13)	23 (+38)	20 (-4)	22 (+9)
木材	61 (+44)	58 (+31)	72 (+38)	61 (+18)	81 (+57)	73 (+39)
石炭	23 (+37)	26 (+35)	27 (+50)	23 (+43)	29 (+61)	28 (+45)
石油	103 (+14)	109 (+10)	102 (+23)	99 (+10)	109 (+35)	98 (+25)
化学製品	49 (+21)	50 (+25)	53 (+27)	51 (+25)	53 (+32)	53 (+23)
機械	71 (+37)	68 (+49)	155 (+171)	92 (+117)	77 (+23)	298 (+341)
鉄鋼	26 (+235)	31 (+22)	32 (+222)	36 (+218)	31 (+230)	30 (+218)
その他	74 (+59)	81 (+62)	94 (+45)	98 (+47)	92 (+51)	91 (+38)
合計	842 (+27)	851 (+26)	969 (+35)	878 (+25)	918 (+27)	1,110 (+53)

(注) カッコ内は対前年同期(月)比増減率(%)。各期月平均。